

平成 28 年度 学校評価報告書（目標設定）

視点	4 年間の目標 (平成 28 年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月24日実施)	総合評価（4月4日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>(1) 1 単位あたりの年間授業時間が確保できるように、授業時間と教育課程を見直す。</p> <p>(2) 自然科学コースが実践してきた様々な取組を、今後も特色ある学習活動として活かしていく。</p> <p>(3) ICT 機器を利活用しながら生徒主体の学習活動を取り入れた授業づくりを学校全体で実践し、その成果を積極的に発信する。</p> <p>(4) 多様な学習課題を提供して家庭での学習習慣の定着を図るとともに、自ら学ぶことの楽しさや喜びを経験させる。</p>	<p>(1・2) 自然科学コースの行事の継承を含め、現行の教育課程を見直し、生徒の一層高い進路目標を達成するための教育課程を編成する。</p> <p>(3・4) ICT 利活用の一つとしてオンライン学習支援ツールの導入を検討するとともに、生徒の自立的学習を促す。</p>	<p>(1・2) 授業時間の確保、行事の精選・充実などを主眼として、学習支援グループを中心に平成 30 年度の教育課程を編成する。</p> <p>(3) 次年度の授業指導計画に、ICT 利活用の事例を織り込む。</p> <p>(4) 現行のクラウドシステムの利活用を含め、オンライン学習支援システムを試行し、検証する。</p>	<p>(1・2) 教育課程の編成が行えたか。</p> <p>(3) 授業指導計画に ICT 利活用の事例を織り込めたか。</p> <p>(4) オンライン学習支援システムの検証成果を情報発信できたか。</p>	<p>(1) 平成 30 年度入学生教育課程編成をくみ上げることができ、併せて、平成 29 年度入学生、平成 28 年度入学生の移行期についても編成を完了した。</p> <p>(2) 教育課程としては、織り込めないが、行事としては継承していくことで共通理解が得られた。</p> <p>(3) 各教科の単元において、ICT 利活用が可能である科目については事例を織り込むことができた。</p> <p>(4) クラウドシステムについては一定の成果が挙げられている。オンライン学習支援システムについては、導入時期が遅延し、十分な検討ができていない。</p>	<p>(1・2) 次期教育課程の見直しも若干織り込むことができた。</p> <p>(2) 春の「海の生物観察会」に始まり、夏の宿泊研修（富士山：生物・地学、筑波：物理・化学）、冬の「ムササビ観察会」、初春の森林ボランティア等々、次年度は自然科学コースとともに行うが、今後もこれらの行事を継承していきたい。また、地球規模環境調査（Globe）や多摩川の観察など部活動が中心となっている事業についても全体へと普及する働きかけをしていきたい。</p> <p>(3) ICT 利活用について継続的に検討する。校内での事例研修はもちろんのこと、機会があれば外部に対しても発信していきたい。また、民間（パナソニック教育財団）助成の有識者助言をいただき、今後活かしていきたい。</p> <p>(4) オンライン学習支援システムについては、今年度 2・3 年生についても企業の協力が得られたが、次年度は大変厳しい状況である。多岐にわたる検証よりも、クラウドシステムに的を絞って検証したい。</p>	<p>(学校評議員)</p> <p>(2) 過去に一般コースの生徒に自然科学の行事を呼びかけたが生徒は集まらなかった。</p> <p>(3) ICT について、教員も生徒も成長を感じる。PC の管理は大変だと思う。インターネットで検索したことは必ずしも正しいと限らない。何が正しいか振り分ける能力を育成する必要がある。</p>	<p>(1) 授業時間の確保に向けて年間行事の精選を行い、平成 30 年度からの新しい教育課程を編成した。現状ではこれでも年間 35 週は満たしていない。さらなる工夫が必要である。</p> <p>(2) 平成 29 年度から段階的に自然科学コースの生徒が減ってくる。一般コースの生徒でも参加できる形での行事を計画していく必要がある。</p> <p>(3) ICT 機器は一定整備が完了した。今後はこれを効果的に活用し生徒の学力向上に繋げる必要がある。</p> <p>(4) オンライン学習システムを活用した反転学習などは一歩を踏み出したと言える。しかしながら費用面で課題を残した。</p>	<p>(1) 行事の精選など更なる大鉦を振るい、次年度早い時期に年間行事計画を策定する。</p> <p>(2) 自然科学コースに関する行事は、一般コースの生徒でも参加できる形で継承していく。</p> <p>(3) ICT 機器は生徒がこれを使い、互いに議論したり考えたりするときのツールとして活用していく。</p> <p>(4) オンライン学習は次年度 1 学年だけ継続する計画である。</p>
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	<p>(1) 自ら進んで規律やマナーを遵守する心を育むとともに、TPO を踏まえた行動や服装を促す。</p> <p>(2) 生徒や保護者が何でも安心して相談できる校内体制をつくる。</p> <p>(3) 学校行事や部活動を通して、生徒の社会性を育み、豊かな人間関係を構築する力を培う。</p>	<p>(1) 「過ごしやすい学校生活」を送るための社会生活上での規範意識やマナーを生徒に伝える。健康で心の豊かな人間性を持ち、思いやりのある友人関係の構築を図る。</p> <p>(3) 生徒が自主的・主体的に企画・運営に取り組む学校行事や委員会活動、HR 活動を推進する。また部活動等を通して、目標に向けて粘り強く</p>	<p>(1) 学期の初めや終わり、学校行事などの機会をとらえ、生徒にルールやマナーに対する注意を喚起し、生徒が自ら正しく判断し行動できるよう支援を行う。挨拶の励行やいじめ防止教育などを通じ、他人を思いやる気持ちを育て、人間関係の構築を図る。</p> <p>(3) 生徒が積極的に参加し、生徒が主体となって企画・運営する学校行事や HR 活動を支援する。また、生徒</p>	<p>(1) 様々な機会をとらえ、生徒が正しい判断、行動ができる支援を行えたか。「自由と規律」の意味合いをしっかりと理解し、行動に移せる生徒を育成できたか。</p> <p>(3) 生徒が自主的・主体的に活動する場を提供し、その活動を支援することができたか。また、部活動等を通して生徒の積極性、自主性や社会性を高める指導・支援の工夫がなされたか。</p>	<p>(1) 服装規定の見直しで衣替え期間を設定した結果、正しい制服着用になった。特にブレザーを着用し、パークの着用がなくなった。自転車の事故は、9 件発生している。自転車専門業者による自転車点検を PTA と協力して実施して整備をさせた。交通安全指導で多摩警察に講話していただき、事故の事例で交通ルールの徹底を指導してもらった。自転車乗車マナーについては、ポスター掲示して呼びかけている。1 学期が多く、2・3 学期は件数が減ってきている。メールやライン、ツイッター等での誹謗中傷やいじめにつながる書き込みについて指導して理解を深めさせた。スクールカウンセラー来校を生徒・教員に周知し、教育相談に</p>	<p>(1) 授業マナー（机の整理・飲食・携帯の使用等）や廊下での歩きスマホについて教科担当者間で情報交換し改善させる必要がある。通学マナーについて HR ・集会等で継続して指導する必要がある。通学時の自転車事故を未然に防ぐため、1 年生に交通ルールの筆記試験をして自転車免許証制度を導入し、安全運転・交通ルールを順守させる。インターネット上で発信される情報の特質を十分に理解して上で、ネット上のトラブルについての最新の動向を把握する必要がある。SNS は、大人の目に触れにくく、問題行動を発見しにくいいため、情報モラル教育をすすめるとともに、保護者においても理解を求める必要がある。更に相談体制の充実に努め、スクールカウンセラーと継続的に相談</p>	<p>(地域住民)</p> <p>(1) 生徒の通学マナー(奥に自転車通学)は最近良くなっている。指導の効果が上がっていると考えられる。(保護者)</p> <p>(1) SNS の使い方については今後も継続した指導をお願いしたい。</p> <p>(3) 耐震工事でグラウンドや校舎に制約がある中で、体育祭や文化祭が実施できるか不安がある。また部活動も十分な活動ができるのだろうか。</p>	<p>(1) 平成 29 年度から自転車運転免許証の導入など新たな試みを実施する。交通事故を未然に防ぐため今後も取り組んでいく。SNS の利用についての考え方は家庭によっても様々である。家庭の理解も得ながら健全な利用を指導していきたい。</p> <p>(3) 次年度の体育祭は等々力アリーナで実施する。現状でできる形で生徒の自主性・社会性を育みたい。</p>	<p>(2) SNS の利用については総合的な学習の時間や情報の授業を通してマナーやその危険性について指導を重ねていく。</p>

			取り組む姿勢や規範意識、社会性を育成する。	がやりがいや達成感を感じたり、規範意識や社会性を高めたりするにつなげる指導・支援を行う。		当たった。ケース会議を必要とする生徒に対して情報の共有をしている。今年度の相談件数は20件であった。 (3) 体育祭・文化祭・球技大会・生徒総会などの各種行事での生徒を支援し、行事を成功させることができた。また、携わった生徒も達成感を味わうことができていたと思われる。 部活動の生徒には部活動の場だけでなく、学校行事の運営に携わるなど、自主性、社会性を高める場を提供し、支援した。	し生徒の悩みの解決やストレス解消等を図ることが望ましい。 (3) 次年度の行事に向けて、耐震工事の関係で施設面での工夫が求められるため、早い時期から委員会活動を活発にする支援が必要である。部活動では顧問に対する研修会を充実させ、生徒の成長の支援、事故防止への意識をより高める取り組みが必要である。			
3	進路指導・支援	(1) 自分が本当にやりたいことを実現しようとする意欲ある生徒を育成する。 (2) 自分の興味・関心・適性・学力など、生徒が自己理解を深めさせる取組を充実させる。	(1) 生徒一人ひとりに自分の将来像をしっかりと描かせ、進路選択や学校選びを支援する。	(1) ガイダンス機能とカウンセリング機能の相互補完により、生徒の進路選択・自己理解を積極的に支援する。	(1) 外部機関を利用し生徒の意欲を向上させる機会を設定したか。また、個別支援を積極的に行い進路選択の支援ができたか。	(1) 社団法人Foraを利用し1年生に対しては2回、2年生に対して1回の学部、学科に関するアクティブラーニングを行った。初めての試みではあったが非常に生徒に好評であった。入試期間の自宅学習を利用し、「大学比較シート」・「志望理由書を書く準備をしよう」を取り組ませ、自分の将来像と進路選択を具体化させることができた。	(1) 来年度以降社団法人Foraが全国展開となってしまうため、年間の利用回数が1校1回に制限されてしまう。学部、学科に関する情報を他の方法を用いてより詳しく伝達しなければならない。カウンセリング機能が今年度は担任教師、学年の進路担当の個人に依存する傾向が強かったので、次年度は進路カウンセリングに対して新たな方法を研究したい。	(学校評議員) (1) 意識を高めるための様々な取り組みは評価できる。これが自宅学習の増加や進路結果に表れるとよい。 (保護者) (1) 進路説明会などの情報発信は今後お願いしたい。	(1) 社団法人Foraを利用したアクティブラーニング研修は生徒の良い動機付けとなった。	(1) 外部機関を活用しながら自己を見つめ、自己を発見し、自らの進路を考える能力を育成していく。
4	地域等との協働	(1) 生徒に地域の一員であることの自覚を促し、生徒・保護者・教職員・地域間に協力関係を築き、学校と地域の絆を深める。 (2) 学校づくりに関する情報を地域に向けて積極的に発信する。	(2) 学校づくりの取組や生徒の学校生活の様子を、生徒・保護者・地域社会に対して積極的に情報発信する。	(2) 学校ホームページの内容を充実させ、効率的な更新を行うことにより、生徒・保護者・地域のニーズに合った情報を迅速に提供する。	(2) 学校ホームページの効率的な更新等により、必要とされる情報が必要ときに発信されたか。	(2) 学校ホームページの更新は、十分とはいえないまでも、前年度に比べ大幅に改善し、部活動・学校行事等の情報を生徒・保護者・地域社会・中学生に対して迅速に提供することができた。	(2) 学校ホームページの更新状況は、部活動・学校行事の種類によってはまだ十分ではないため、担当者とともに情報の提供を積極的に進めていく必要がある。	(地域住民) (2) 地域行事や地域での防災活動など、今後も連携をお願いしたい。	(2) ホームページは情報発信の大変有効なツールである。今年度はこの点で十分活用できてはなかった。	(2) ホームページは定期的な情報発信、更新などに努めていく。
5	学校管理 学校運営	(1) 保護者・学校評議員・地域の方の意見を幅広く取り入れ、開かれた学校づくりを推進する。 (2) 生徒が充実した学校生活を送れるように、安全安心な学校づくりを推進する。	(2) 施設・設備の安全点検を行い、生徒が充実した学校生活を送れるように、安全安心な学校づくりを推進する。	(2) 環境問題や環境美化に対する生徒の自主的、日常的な取組の推進をする。また、防災訓練などを通して生徒・教職員の防災意識を向上させる。	(2) 清掃活動や学校行事等で環境問題や環境美化に対する生徒の自主的、日常的な取組を推進することができたか。また、防災訓練などを通して生徒・教職員の防災意識を向上させることができたか。	(2) 日頃の清掃活動に加え、学期の変わり目の大掃除や、学校行事中での大掃除を指導する中で生徒の環境問題や環境美化に対する自主的、日常的な取り組みを意識させることができた。防災訓練などを通して、生徒・教職員の防災意識を向上させることができた。	(2) 来年度はA棟の耐震工事のため、仮設校舎を利用することになるので、環境整備については状況を見ながら臨機応変に対応していく必要がある。防災対策についても、仮設校舎からの避難経路の確認など周知していきたい。	(地域住民) (保護者) (2) 4月から耐震工事が始まると聞いている。工事中、工事車両の出入りもあると思うが安全には十分に注意し事故がいようをお願いしたい。	(2) 仮設校舎への引っ越しの準備、工事中の安全の確保、防災体制など検討すべきことが山積している。	(2) 耐震工事では事故が起きないよう業者と連絡を取り合いながら必要な情報を生徒・保護者、並びに地域に発信していく。また円滑な引っ越しができるよう計画を立てていく。